

Japanese Cinema and Music:

Composers in the 1950s and 1960s

Page 1



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

① Lytle bark.

展覧会

日本映画と音楽

1950年代から
1960年代の作曲家たち



2024.4.9(火) - 8.23(金)

* 月曜日および5月7日(火) - 12日(日)は休室です。

国立映画アーカイブ展示室 (7階)

開室時間: 午前11時 - 午後6時30分 (入室は午後6時まで)

* 4/26、5/31、6/28、7/26の金曜日は開室時間を午後8時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで)

料金: 一般250円(200円) / 大学生130円(60円) / 65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料

* 料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。 * ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。

* 国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

主催: 国立映画アーカイブ 協力: 株式会社スリーシェルズ

国立映画アーカイブホームページ www.nfaj.go.jp/

X(旧 Twitter): @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR Instagram: nationalfilmarchiveofjapan

背景: 團伊玖磨作曲『白夫人の妖恋』(1956年、豊田四郎監督) 自筆譜 團伊玖磨アーカイヴズ所蔵

レコード(左から): 林光作曲『裸の島』(1960年、新藤兼人監督) / 「映画館という名の演奏会場」(1966年) / 佐藤勝作曲『日本海大海戦』(1969年、丸山誠治監督) /

芥川也寸志作曲『地獄変』(1969年、豊田四郎監督) / 黛敏郎作曲『君も出世ができる』(1964年、須川栄三監督) ソノシート いずれも個人蔵

日本において映画産業が隆盛を極めた1950年代から1960年代にかけて、映画界はさまざまな芸術分野のエキスパートたちに協力を仰ぎ、作品を続々と送り出していました。その最たるものの一つが音楽です。とりわけ、日本で当時活躍した作曲家たちの多くが映画界と手を結び、その繁栄を力強く支えました。作曲家たちにとっても、映画のために音楽を書き下ろす仕事は自らの創作意欲を実践に移すための貴重な機会でもありました。彼らによって映画のために書かれた諸作品は、演奏会用作品とはまた一味違った魅力に溢れています。

本年(2024年)は、團伊玖磨、眞鍋理一郎、斎藤高順といった日本映画に深く関わった作曲家たちが相次いで生誕100年を迎える年でもあります。それを記念して、撮影所システムのもと各社が映画作品を量産していた1950年代から1960年代に映画界で活躍していた作曲家たちを取り上げ、貴重な自筆譜や製作資料などを通じて彼らの功績を顕彰します。

また、本展覧会と連動して大規模な特集上映企画も開催、さらには当館初の試みとなる上映ホールを会場とした演奏会も催すことで、数多くの作曲家たちがフィルムに刻み付けた音の軌跡を多面的に体感いただくことができます。日本映画の黄金時代を視覚面・音響面両方から深く味わうことのできるまたとない機会をお楽しみください。

During the 1950s and 1960s, when Japanese cinema flourished, the nation's film industry produced works one after another by enlisting experts in a broad range of artistic fields. One of the most important was music. Many of Japan's leading composers of the time joined forces with the film industry and did much to bolster its prosperity. For those composers, writing film scores provided a valuable opportunity to put their creative urges into practice. Their works written specifically for film have a different appeal from those written for concert audiences.

This year, 2024, marks the 100th anniversary of the births of Ikuma Dan, Riichiro Manabe, and Takanobu Saito, composers deeply connected with Japanese cinema. To commemorate this, NFAJ will feature composers who were active in the film world from the 1950s to the 1960s, when the studios were churning out movies, and honor their achievements by exhibiting precious manuscript scores and production materials.

In conjunction with the exhibition, we also will hold special large-scale screenings and, for the first time in our history, concerts in the film theatre. These programs will allow visitors to experience from multiple aspects the trajectory of sounds that composers have etched into the nation's film landscape. We hope you will enjoy this unique opportunity to fully appreciate Japanese cinema's golden age from visual and acoustic perspectives.

展覧会の構成

- ▶ **イントロダクション：戦後日本映画の黄金時代**
—戦後日本音楽の黄金時代
- ▶ **日本映画音楽の開拓者たち**
- ▶ **戦後クラシック音楽の旗手たち**
- ▶ **多様なバックグラウンドを持つ作曲家たち**
- ▶ **ポスターギャラリー**

関連上映企画

「日本映画と音楽
1950年代から1960年代の作曲家たち」
2024年5月25日(土)~7月28日(日)
会場：長瀬記念ホール OZU[2階]

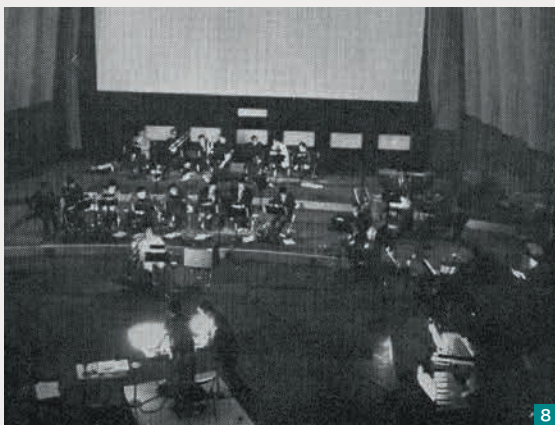
トークイベント

ゲストをお招きしたギャラリートークや当館研究員による展示品解説を実施します。

演奏会

2024年5月25日(土)

* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。



1 『虹を抱く処女』(1948年、佐伯清監督、早坂文雄作曲) パンフレット 2 『浮雲』(1955年、成瀬巳喜男監督、斎藤一郎作曲) パンフレット 3 『狂った果実』(1956年、中平康監督、武満徹・佐藤勝共作) パンフレット 4 富樫康著『日本の作曲家』(1953年) 5 『3人の会』(黛敏郎、芥川也寸志、團伊玖磨) (『3人の会』による現代日本作品の夕)演奏会プログラムより) (1962年) 6 『女であること』(1958年、川島雄三監督、黛敏郎作曲) プレス資料 7 『八甲田山』(1977年、森谷二郎監督、芥川也寸志作曲) 音楽ロール表 日本近代音楽館所蔵 8 東宝撮影所のダビングルーム (1965年頃) 7以外はいずれも個人蔵



1



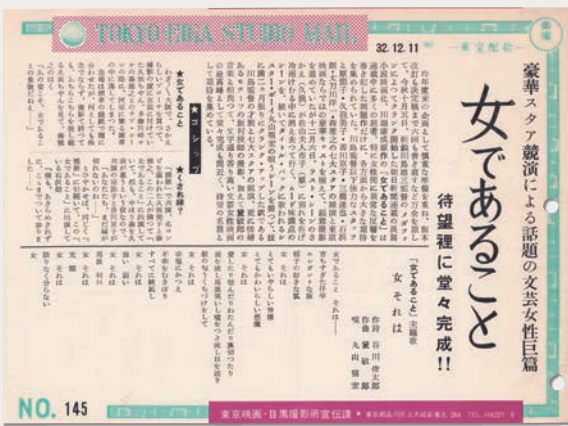
2



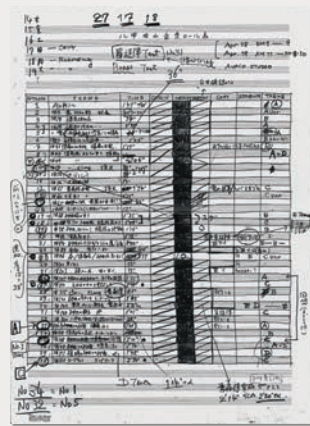
4



5



6

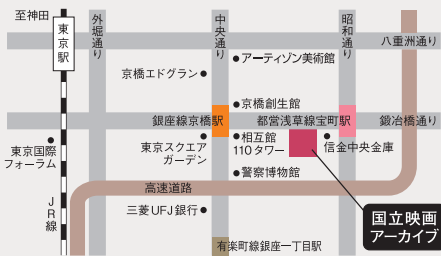


7



国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6
お問い合わせ：ハローダイヤル 050-5541-8600
国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.go.jp/



交通

- ▶ 東京外口銀座線京橋下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
- ▶ 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- ▶ 東京外口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- ▶ JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

